◎向日市民憲章◎
1　住みよいまちを力を合わせつくりましょう
1　きれいな緑と水と空を守りましょう
1　働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
1　すぐれた教育と文化を育てましょう
1　明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

広報向日市

No.345
昭和60年1月15日

◎発行　向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集　秘書広報課　◎電話　075(931)1111

おめでとう20歳

未来へはばたけ若者たち

おめでとう、二十歳。

昭和六十年の新しい年が明けました。二十歳になったみなさんにとっては、一人前のおとなとして、一人の社会人としての〝船出〟の年です。

また今年は、国連の定めた国際青年年。未来を築く――それはいつの時代も青年の役割です。

家庭、地域社会、国際社会など青年を取り巻く〝社会〟はさまざまですが、青年が自らの意思、判断、活動によって積極的に社会参加を進めていくことが求められています。

今年、市内の新成人は七百九十人。この中から五人の方に「はたちの夢と抱負」を語っていただきました。

青木洋子さん

二十歳――まるでひと事のように思っていた私。その私が今、成人式を迎え、何も変わりはないけれど社会からは一人前の大人として見られる。また、認められる。

正直言ってうれしさ半分、不安半分。

今までの二十年を振り返ってみても、甘えた自分しかなかったように思う。

人生の一つの節目である今日からは、それでは通用しない。

人生の荒波をのりきるためには苦しみもあるでしょう。

しかし、自分を見失うことなく信念を持ち、強く正しく行動には責任を持ちだからと言って決して背のびせず、平凡であってもよい、常識ある大人になりたいと思う。

名倉由紀子さん

この地球上では、今もなお戦争が行われ、カンボジア・アフリカなどの子供たちが飢えに苦しんでいる姿を見ると、物のありがたさを見失いそうな程の日本の裕福さを、痛切に感じないではいられません。私たち青年は、どこか自由と平和に恵まれながら、時間を持てあましているように見えます。最近の若者はおとなになろうとしないといろいろ批判を受けますが、情報の氾濫するこの社会にあって、コマーシャリズムに踊らされて自分自身、いいえ本質的な人間というものを見失わないように確かに生きてゆくためには、ゆっくり迷う、つまり選択、準備期ともいえる時期も許されてもいいと思います。私はこの時期を人生の基盤とし充実させて生きて行きたい。

大西真人さん

高校卒業後、社会に出て様々なことがありましたが、どうにか軌道に乗りかけていたとき、私はちょっとした障害にぶつかりました。

それは働いた成果が、毎日が真剣な職場の中では、数枚の紙切れとしてしか残らない様な気がしていたのです。

しかしそんな時、私たちの手がけた商品がTVで宣伝され、店先で買われてゆくのを見て、『お金という形だけの物ではないんじゃないか、私には商品を買ってくれた人や取引先より評価される会社からの信頼がある』ということに気がついたのです。

私の二十歳の社会人としての抱負は評価・信頼を周囲から受け、形だけでない新しい何かを見つけ出し、得て行くことです。

吉持　隆さん

東京オリンピックの年に生まれ、日本が世界有数の経済大国になって行く中、私たちも成長し成人式を迎えることになりました。

そしてこれからの私たちには、その日本社会の成員の一人として社会における自分自身の立場を正しく認識し、行動する必要があると思います。近年、マスメディアの目覚ましい発達に伴う情報の速さ、多さは以前のそれとは比べものになりません。そんな社会で画一的にならず、自らの個性・特性を見極め生活して行くのは、とても難しいことかもしれません。しかしそれは、自分自身の人生を有意義ですばらしいものにするには必要です。

私は、二十歳を社会における自分を考える一つの契機としたいと思います。

大久保幸子さん

今までは、〝二十歳なんてまだまだ〟〝二十歳の人は、もう、しっかりした大人〟と思っていたけれど、いざ二十歳になってみると〝これでもう、大人の仲間入り!?〟という不思議な気分で、なかなか実感が湧いてきません。

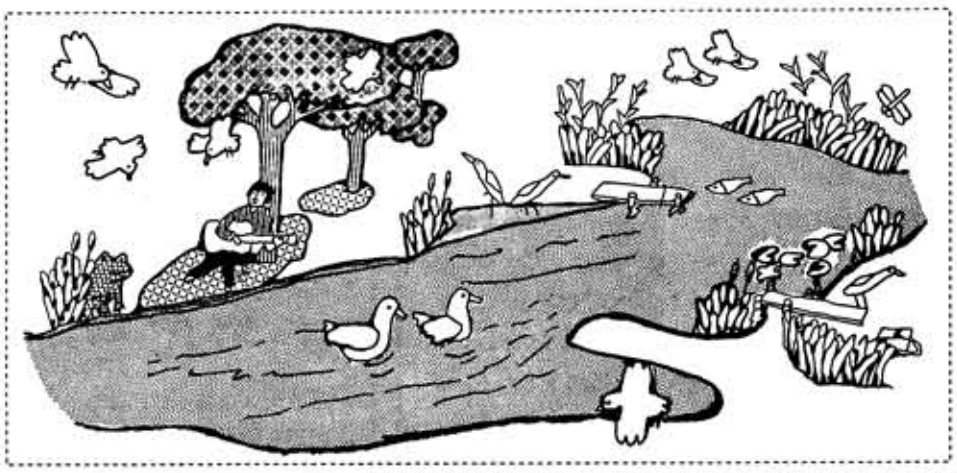
けれど、もう今年からは、就職して社会人となる身です。学生時代のように、甘い考えではいられないでしょう。

夢もあります。不安もあります。

だけど、とにかく他の誰のものでもない自分の人生。社会の荒波に負けないように、自分自身の考えをしっかり持って、私にしか歩めない私自身の人生を、歩んで行きたいと思います。

“郷土の川を美しく”

川はかけがえのない私たちの大切な財産です。その町を流れる川の美しさによって人びとの自然を愛する心がはかれるといわれます。

今、川に美しい流れをとりもどすために、私たちひとりひとりの協力と川をきれいにする日ごろの心がけが、ぜひとも必要です。さあ！私たちの手で郷土の川をいつまでも美しく守りましょう。

■ 向日市　川を美しくする会 ■